

(様式1)

令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校 教育 目標	『心身ともにたくましく、ふる里を愛する 人間性豊かな 子どもの育成』 なかよく たっしやで きばる子 (共生) (自立) (創造) 徳 体 知	昨 年 度 の 評 価 概 要	基礎学力は定着しており、学校としての努力が実を結んでいる。いろんなことに丁寧に、子どもたちに関わってくださる様子を伺い、大変有り難いことだと思う。地域と連携して体験学習を積み重ねていく事が大切だと感じる。それを学校地域連携カリキュラムとしてまとめられたことは良かったと思うが、そのカリキュラムを生きたものにしていくためには、年度ごとの振り返りが大事になる。コロナ禍の中、子どもたちの「今しかできない」学びや体験をできるだけ守りたいという学校の思いがよく伝わった一年だった。特にサイクリングは、先生方の努力や、保護者や地域の方の協力、子どもたちのがんばり、すべてが合わさって行うことができ、本当に感動した。今後、児童数が減少していくことは確実であるが、少人数だからこそ、自然豊かな朽木だからこそできる学びや体験をこれからも続けていただきたい。高校やその他の多人数の中に入った時に、何か自信が持てるものがあれば良いと思う。少人数だからこそ、そんな一人ひとりにつけたい力と向き合えるのではないかなと思う。	中 期 的 目 標	1. 地域とともにある学校を目指す + 『夢』『志』をもって学び合う学校づくりを推進する ・中学校区保幼小中一貫教育10年目 ・コミュニティスクール6年目 2. 授業改善・指導力を向上し、児童が学びを実感できる授業の実践 ・道徳・外国語・ICT機器活用・学び合いに重点を置いた授業改善・授業研究 3. 「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与えて、プレゼン力の伸長を促進（コミュニケーション力の育成）・楽しく明日も来なくなる学校の創造
----------------	---	--------------------------------------	---	-----------------------	--

	評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
なかよく(徳)	①仲間・集団づくり ・心に響く道徳授業 ・いじめを許さない学校づくり ・共感的人間関係の育成	保護者への道徳授業公開 (各学年 1回以上/年間) 水曜1校時または2校時を「道徳」の時間として、計画通り進める 児童集会での個人発表機会 (1回/年間) 縦割り活動など仲間づくり	保護者への道徳学習参観を12月に実施。各学年のカリキュラムに基づき道徳授業を展開(通年 毎水曜日)。 今年度は一堂に会しての児童集会を実施し、始業式・終業式後の「みんなの広場」で年間1回の個人発表実施(100%)。全校縦割り遊びを実施。	B A	A	今後も道徳授業を全学年水曜の時間割に位置付けて実施することで、時数確保と授業改善の機運を高める。道徳の保護者参観は継続。外部人材を活用した道徳も模索していく。児童発表の場を複数回持てるよう工夫する。 地域の自然や地域人材との連携により、朽木ならではの学習を継続し、さらに積み上げていく。学習発表の場を今後も3学期に設定することとし、学習成果を参観者に伝え、児童のプレゼン能力・発表力を伸ばす場とする。 「学校いじめ防止基本方針」の見直し・改訂を随時実施し、実効性のある取組とする。社協と連携した福祉教育は各学年の内容を継続していく。人権教育を中心にいじめ防止に向けた意識を更に高めていく。
	②共生する力・生き方学習継続 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林・田んぼ・自然体験活動 ・他校との交流活動の実施	(低学年)稚鮎放流・町探検 (中学年)森林学習・どんぐりプロジェクト (高学年)オグラス登山・米作り・どんぐりプロジェクト キャリア教育に繋ぐ学習発表機会 (1回/年間 3学期実施)	各種団体・地域連携や保護者ボランティアの協力を得て地域学習を実施。「朽木の自然の良さを知ることができました」(児童100%) 今年度は全校が一堂に会して実施。各学年1年間の学びの成果を保護者の前で発表(2/9学校開放日)。	A A		
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携) (各学年1単元/年間) 毎月「校内人権の日」の取組実施 (100%) 県の人権学習資料の活用(全学年)	社会福祉協議会と連携、各学年の発達段階に応じた学習を実施(100%)。1年視覚障害 2・3年聴覚障害 4・6年高齢者 5年ユニバーサルデザイン 人権を大切にする学級目標を立て、取組後の振り返りも実施。(100%) 「人にいじわるや仲間はずれをしないようにしています」(児童100%)	A A		
	④命を大事にする環境づくり ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・SOSアンケート等調査結果の活用	『命の授業』2・4・6年(1回/年) 避難訓練・引き渡し訓練(4回/年) 「学校が楽しい」と思う児童(100%) アンケート調査結果をもとに指導対応、ケース会議(随時)	外部講師を招いて発達段階に応じた「命の授業」を計画的に実施。非常時の引き渡し訓練は、隔年実施のため今年度保幼小中合同で実施。 「学校は楽しい」(1～3年児童100%4～6年児童83%) いじめアンケート・教育相談週間・ケース会議等により、個々に応じた受け止めや対応ができた。	A B		
たっしやで(体)	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の工夫実施・中学校区取組(100%) 栄養教諭による食育指導 (各学年 100%) 朝食摂取率(100%)	10年以上の取組として定着(毎学期実施100%)。2年前から保幼小中一貫教育の一環として中学校区全体で取組を進め、今年度内容を改善。 食育指導は栄養教諭の指導により全学年で実施(100%)。6年生は養護教諭も入ってのTT指導。朝食摂取率(毎日食べている96%だいたい食べている4%)	A A	A	今後、校外活動における安全マニュアルに基いた安全対策を徹底して教育活動を行う。特に次年度は、サイクリングに向けて万全な体制を整えていく。教育相談では、各種調査等に即応した面談・対応を実施し、関係課機関とも連携していく。 今年度改善を行ったノーマディアウィークの取組を次年度も見直し改善していく。今年度の保幼小中のアンケートを生かして内容を検討。栄養教諭による食育指導は、学活、保健、家庭科等の一環として今後も継続。 次年度の運動会も小中単独で開催予定(小中同一日午前・小 午後:中)。その中で小中交流を今年度よりも充実させる。日常の体育科や体育行事を通して、運動に親しまっきっかけづくりをしていく。
	⑥体力向上策の継続 ・体育の授業、体育的行事の工夫 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	少人数での工夫した体育の実施、運動会等の体育的行事の開催 体育的行事の内容工夫 鉄棒・一輪車・縄跳び・竹馬遊び等の技を増やす児童(100%)	学年部体育の実施。運動会は、6月の平日に種目を工夫して小学校単独開催。園・中学校とも連携。 運動会やベースランニング走などの体育行事をきっかけに、体力づくりに積極的に取り組む児童が多かった。(児童100%)	A A		
	⑦学ぶ方向向のための授業改善 ・「学び合い」授業の追究 ・課題解決的な学習の充実 ・高学年一部教科担任制	「授業が楽しい」「勉強がわかる」児童(100%) BUT小中合同学び合い学習実施(100%) 学力調査・確認テスト結果活用 PDCAによる学ぶ力向上策の推進(毎学期)	「勉強は楽しい」(児童88%) 「勉強はよくわかる」(児童100%) BUT小中合同学び合い学習実施(年間3回実施100%) 6年生全国学力調査は国語・算数ともに高い正答率。結果を分析して学ぶ力向上対策に生かしている。	A A		
	⑧学びの保障に向けた取組 ・ICT機器の有効活用 ・個別最適な学びの実現 ・朝学習の充実(漢検等)	タブレット端末等のICT機器を活用した授業 (毎日) 朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着 外国語活動・考え、議論する道徳授業(毎週水曜日実施)の充実	タブレット一人1台端末配置の環境を生かして、毎日の学習活動で効果的に活用(100%)。漢字検定(毎週火曜日)や朝読書も定着。 ALTとの外国語科・外国語活動は内容が充実。「道徳授業などで、相手の気持ちを考える、ルールを守るなどを一生懸命考えました」(児童96%)	A B		
きばる(知)	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書 朝学習 補充学習 ・読書活動の充実(図書サロンの活用)	家庭学習時間10分～15分×学年 (95%以上) 朝読書の実施(週3日) 図書貸し出しの利用(全学年) ボランティアによる「朝の読み聞かせ」の実施(1～3年)	全学年タブレット端末を毎日持ち帰って家庭学習でも活用。 「宿題や自主学習に進んで取り組んでいます」(児童90%) 朝の読み聞かせは年度当初から実施。ブックトーク、訪問貸出の実施。 「学校や家で進んで本を読みました」(1～3年児童100%4～6年児童76%)	B A	B	少人数の良さを生かすとともに、ICT機器の効果的活用による個別最適化の授業をめざす。BUTの取組継続。各種調査結果を分析し、見えてきた課題の解決に向け日常の授業を充実させるとともに授業研究会を実施し、授業改善を行っていく。 児童のタブレット端末活用力も向上。市内先進校としてICT機器タブレット等の活用に向け、更に実践を蓄積する。漢字検定は、学習意欲の向上につながり、成果も出てきているので継続。 タブレット端末の持ち帰りに伴い、情報モラル教育も行い、家庭学習の内容も改善していく。読み聞かせや図書サロンの本の貸出は、児童も楽しみにしている。今後さらに読書環境の充実や家庭への啓発を行っていく。
	⑩地域とともに・繋がり響きあう学校 ・コミュニティスクール6年目 ・学校情報発信・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	学校運営協議会・地域学校協働活動との一体化 学校地域連携カリキュラムの作成 学校だより(月1回)、保健だより(月1回)、結の会通信(随時) メール配信(毎週土曜日)	保幼小中一貫した学校地域連携カリキュラムを実践、検証、改善できた。 協働活動は地区推進員のコーディネートにより活動を工夫して実施。 各種広報については目標回数をクリアしながら発行。学校だよりは目標を大きく上回り発行。	A		

学校 関係 者 評 価	総 評		評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・基礎学力は、少人数であることやICT機器の活用、教職員の努力で、ほぼ定着しているように思う。 ・昨年度の評価と比べ、BからAになった項目が5つあり、学校として取り組まれてきたことが成果としてあらわれてきたと思う。 ・B評定の4項目は、教職員や家庭の働きかけて、児童の意欲をどう高めるか、児童のおかれている状況をどう改善していくかという課題である。この課題は、学校生活の中で教職員が最も意識を研ぎ澄まして対応すべきものであり、日常での不断の努力が求められる。 ・地域の人、もの、ことをこれからも活用し、子どもたちの成長を家庭、学校、地域のみんなで支えていきたい。 ・これからも朽木ならではの体験や学習を増やし、ふるさととの思いを強くしてほしい。 ・コミュニティスクールの意味を全職員が理解し、活用してほしい。 ・久々のマスクも制約もない学校生活は、子どもたちにとってとても開放的で心地よく過ごせた1年だったと思います。今まで出来なかった分を取り戻すかのように、本当に様々な体験や行事があり、地域ボランティアの方もたくさん参加してくださって、盛りだくさんな1年でした。来年度以降子ども数が減少していくことは確実ですが、少人数を活かした大規模校ではできない朽木らしい学びが引き続きできることを願っております。		A	・近年の児童数減少により、複式学級編成、さらに職員定数も減となり、体制にも影響が出ており、今後、状況はさらに厳しくなっていく。コロナ禍の中で工夫しながら教育活動を行ってきた経験を生かし、行事の厳選や見直しを行い、「子どもの学び」を最優先にした教育活動を行っていく。 ・今後も子どもたちにつけたい力について熟議しながら、学校運営協議会や地域学校協働活動を軸に、保護者や地域との連携を深め、理解、協力を得ながら、外部の力を取り入れた教育活動を行っていく。 ・今年度検証、見直しを行った「学校地域連携カリキュラム」を2年目も円滑に実施するとともに、随時検証、見直しを行っていく。保幼小中一貫教育の取組ともリンクさせ、情報発信を積極的に行い、「結の会」を中心とした地域学校協働活動のさらなる充実を目指す。 ・朽木独自の保幼小中一貫教育を継承・発展させていく。ノーマディアウィークの取組を改善しながら継続していく。 ・市内ICT活用先進校として、タブレット端末を有効活用した授業実践をさらに積み上げていくとともに、家庭学習での活用も工夫していく。 ・朽木地区の自然や文化を生かした教育活動を大切に継承していく。そのことで「ふるさと朽木」を大切にする心情を育ていく。 ・少人数の環境下で手厚くきめ細かく指導できる良さを生かして、児童一人ひとりの思いに寄り添いながら、相談や支援をしていく。また、少人数であっても、多様な考えに触れ、自分の考えをより深めていけるような手立てを講じる。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)